

松阪市議会議長
堀端 脩 様

令和4年5月2日

松阪市議会議員
西口 真理

研修報告書

研修会の名称 「議員力研究会」
期日 令和4年4月23日(土) 13時～17時
会場 那古野コミュニティセンター（名古屋市西区那古野、最寄駅:名古屋駅）
参加者 東海地区を中心とした市議会議員10人

この研究会は、岐阜県多治見市の職員として総合計画の策定など行政実務(部長職)だけでなく、議会事務局長経験をお持ちの青山崇氏(自治体学会会員、東海自治体学会役員)を常任の講師として迎え、年度に4～5回、名古屋駅周辺で開催されている。東海、近畿から計10人の市議会議員が参加し、毎回、あらかじめ指名のあった3人程度の議員が直近に行った一般質問等を持ち寄り事例発表する。それについて参加者で検証し、講師の青山氏からも意見が出される。自治体議員としての議員力を高めるための研究会。

【内容】

1. 一般質問等事例報告

① 瀬戸市議会議員 臼井 淳

「 第5号議案 瀬戸焼で暮らしを楽しもう条例の制定について 」

地場産業である瀬戸焼の理念型条例が提案された。条例そのものに反対するつもりはないが、条例の一部条文に問題があったため、修正案を提出した。

第3条の基本理念について、瀬戸市・瀬戸焼関連事業者にとどまらず、それ以外の事業者や在勤、在学といった市外住民にまでを市民に含めて、「連携」「協力」して「取り組まなければならない」とした義務づけている。確認した限り、他の自治体の類似条例において、市民を主語にした場合、「努めるものとする」の規定にとどめており、義務づけている例はない。義務化の対象として、瀬戸市や瀬戸焼関連事業者以外の一般瀬戸市民、市外の住民を含めることに問題があるとして修正案を提出したが少差で否決された。

条例そのものへの見解と、時間のない中での修正案作成、他議員への働きかけなどどうするべきか、皆で意見交換を行った。

② 各務原市議会議員 杉山 元則
「新総合体育館の建設について」

現総合体育館を存続するのか、解体するかも決めないで、新総合体育館建設を進めている。建設してからどうするのかを決めればいいと回答。2つの体育館を維持するのは困難(ナンセンス)と思う。地域住民への説明もなく、市民から疑問の声も多く寄せられている。浅野市長の行き過ぎたハコモノ建設(新庁舎 100 億円、新総合体育館 83 億円、特別支援学校 62 億円、工業団地造成 30 億円)にブレーキをかけたい。

市民に情報発信し、税金の使い方について関心を持ってもらうためには、どのような活動をするべきか。

③ 日進市議会議員 舟橋 よしえ
「民間が行う住宅開発に大きな問題がある時、議員にできることは何か」

日進市香久山三丁目地区の名古屋市に張り出しているところに住宅開発計画があることが名古屋市住民側からの情報で発覚。日進市の住所でありながら、名古屋市側にしか道路が繋がっていない計画であることがわかり、一般質問で取り上げた。

今後、この計画が具体的に動き出すと、現在の計画のままでは、日進市香久山地区にとって、工事中も、人が住み始めた後も、問題が生じることになると思われる。

民間の開発事業であるが、行政の関わりと、議会(議員)の関与をどのように考えて行けばいいのか、今後に向けて議論。





2. 意見交換会

「 コロナ禍における選挙について。SNS の活用、リーフレット、街宣 PR などの活動計画 」

【所感】

今回の事例発表は、各市のかなり固有具体的な内容であった。事前(2週間前)に内容を発信してもらっているので、各自が下調べ、事前調査をした上で研究会に臨むことができるが、先輩議員やアドバイザーから、事案に関わる条例や法律、他市の事例など、豊富な情報をいただき、自身の考えの及ばなかった点に多くの気づきを得た。一般質問を行う際にも、法令関係や過去の事例、経緯などしっかりした前準備が、質問の正当性を高める事を改めて学んだ。

修正案の提出など、議案に異議を唱える時、それをいかに「議会の総意」として他議員に広めるか。無会派や少数会派が多いメンバーの共通の課題であり、皆さん色々苦勞をされている中、参考となるお話も聞いた。今後の活動に生かしていきたい。

コロナ禍もあり、市民との意見交換、交流が制約されているが、その中でも精力的に情報発信されている(毎日の街頭演説、議会報告の配布など)議員の思いを聞かせていただき、大変刺激になった研究会であった。

以上